



YUSHOUKAI MEDICAL CORPORATION

YUSHOUKAI REPORT

2018

» OUR MISSION

医療法人社団悠翔会は

「人を幸せにするための人間集団」です。

わたしたちは、地域医療の理想を追及する

先進的医療機関であり続けると同時に、

すべての職員が仕事を通じて成長し、

豊かな人生を実現するための場を提供します。

そして

「かかわったすべての人を幸せに」しながら、

豊かな未来をわたしたち自身の手で

創り出します。

OUR PRINCIPLE

わたしたちの基本理念

「かかわったすべての人を幸せに」

わたしたちは、

1. すべての職員の成長と幸福を実現します。
2. 地域医療の理想を追及します。
3. 豊かな未来の創造に貢献します。

OUR RESPONSIBILITY

わたしたちの責任

すべての患者さんにご家族に「安心できる生活」と「納得できる人生」を。
わたしたちは、

1. ご本人とご家族の思いを尊重します。
2. 後悔しない意思決定と安心できる療養生活を支援します。
3. 社会（費用負担者）に対し、説明責任を果たします。

OUR VISION

わたしたちのビジョン

首都圏で最高の「チーム在宅医療」を実現する！

わたしたちは、望むすべての人が、望む場所で、生活が継続できるよう、

1. 病状・社会的状況によらず、いかなる患者さんでも受け入れられる強力かつ安定的な診療体制を構築します。
2. 地域が共有する課題解決に全力で取り組み、地域全体の「在宅医療力」・「在宅看取り力」の強化に貢献します。

OUR PHILOSOPHY

わたしたちの共有する価値観

「患者さんのニーズが最優先」

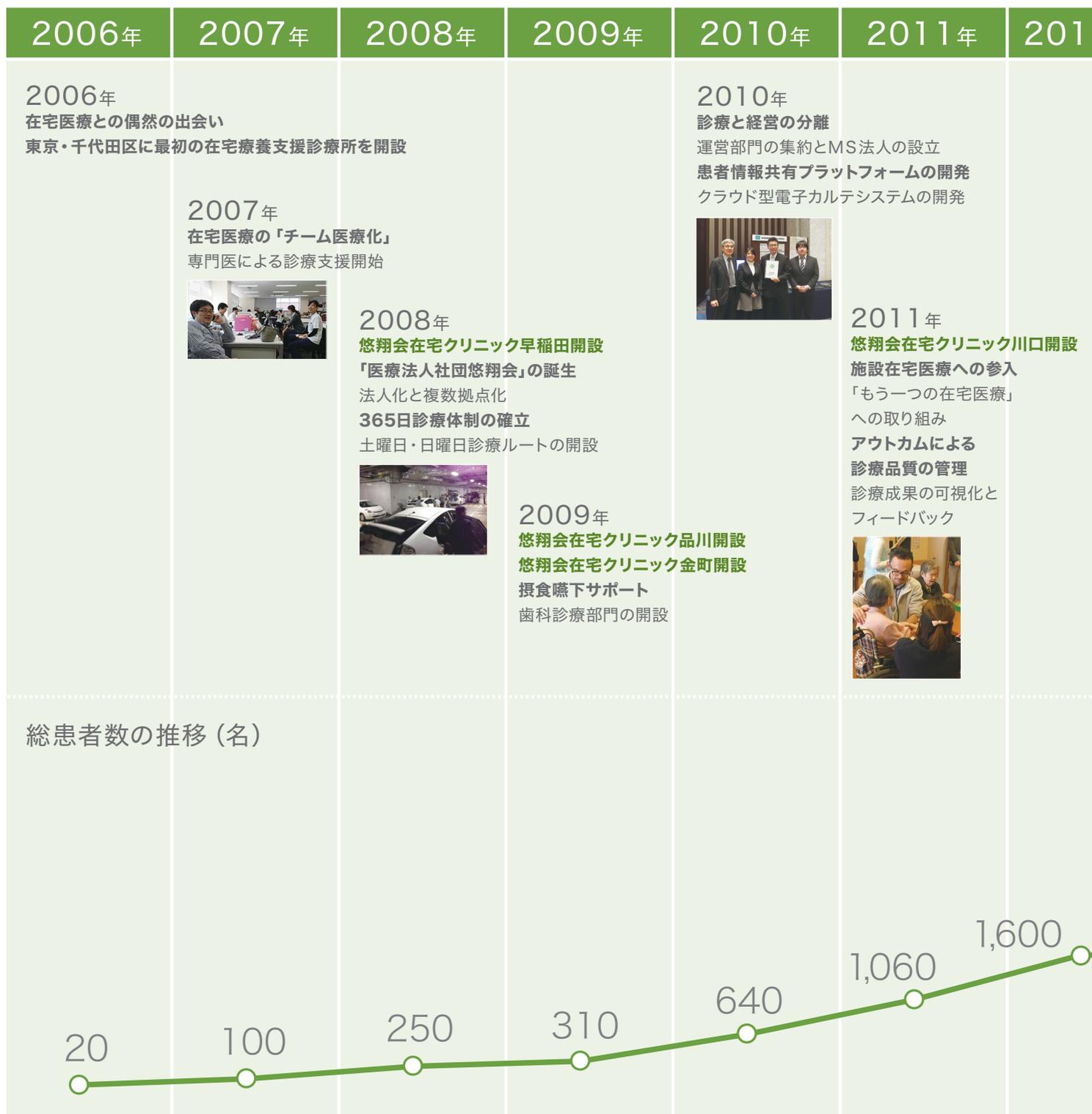
わたしたちは、

1. 患者さんの幸福を本気で考えます。
2. やるべきことに真摯に取り組みます。
3. 人として、医療人として成長し続けます。
4. 利益ではなく、サービスの理想を追及します。
5. 社会のニーズを捉え、自ら変化する意欲を持ち続けます。

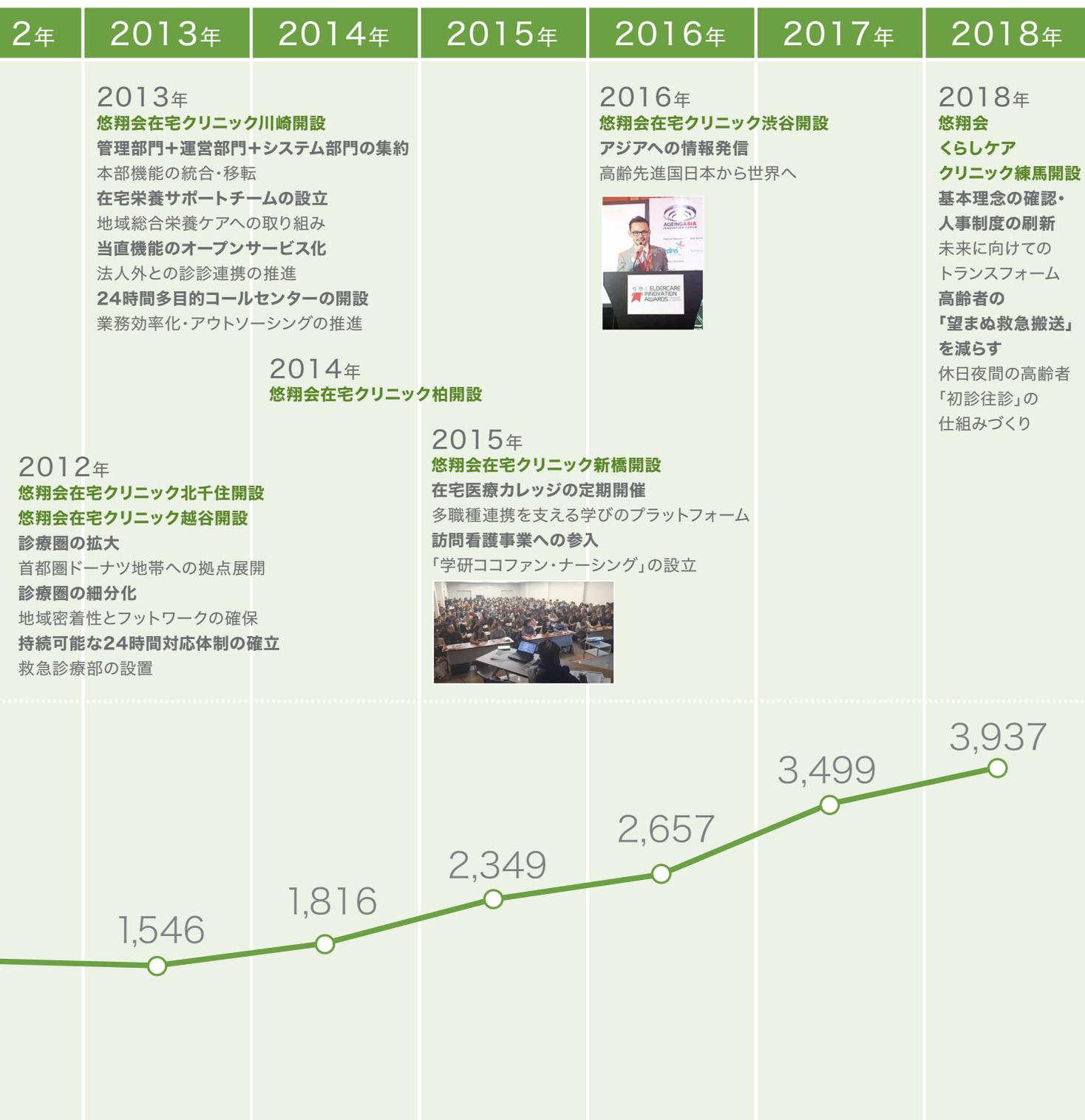
» OUR HISTORY

沿革

医療法人社団悠翔会と 在宅医療の12年



医療法人社団悠翔会が在宅医療への取り組みを始めたのは2006年。
 在宅療養支援診療所が定義されたその年でした。それから12年間。
 わたしたちは理想の在宅医療のカタチを模索しながら、試行錯誤を重ね、現在に至ります。
 在宅医療に対する地域のニーズは、この12年間だけでも大きく変化してきたように思います。
 これから後期高齢者が急激に増加していく東京・首都圏というフィールドで、
 わたしたちは何をなすべきなのでしょう。
 これまでの歩みを振り返りつつ、これからのわたしたちのあり方を
 今じっくりと考えてみたいと思います。



首都圏では今後数十年にわたり、要介護者の急増が予想されています。わたしたちは、この圧倒的な在宅医療ニーズにこたえるために、「チーム在宅医療」の理想を追求しています。

半径16キロをフルに使うのではなく、より小さな単位で診療拠点を配置し、1つ1つの診療拠点に複数医師・さまざまな医療専門職を配置、いかなる患者さんでも受け入れられる強力かつ安定的な診療体制の構築を目指しています。

① クリニック数

2018年9月現在

11 クリニック



東京都：7 神奈川県：1
埼玉県：2 千葉県：1

② 従業員数

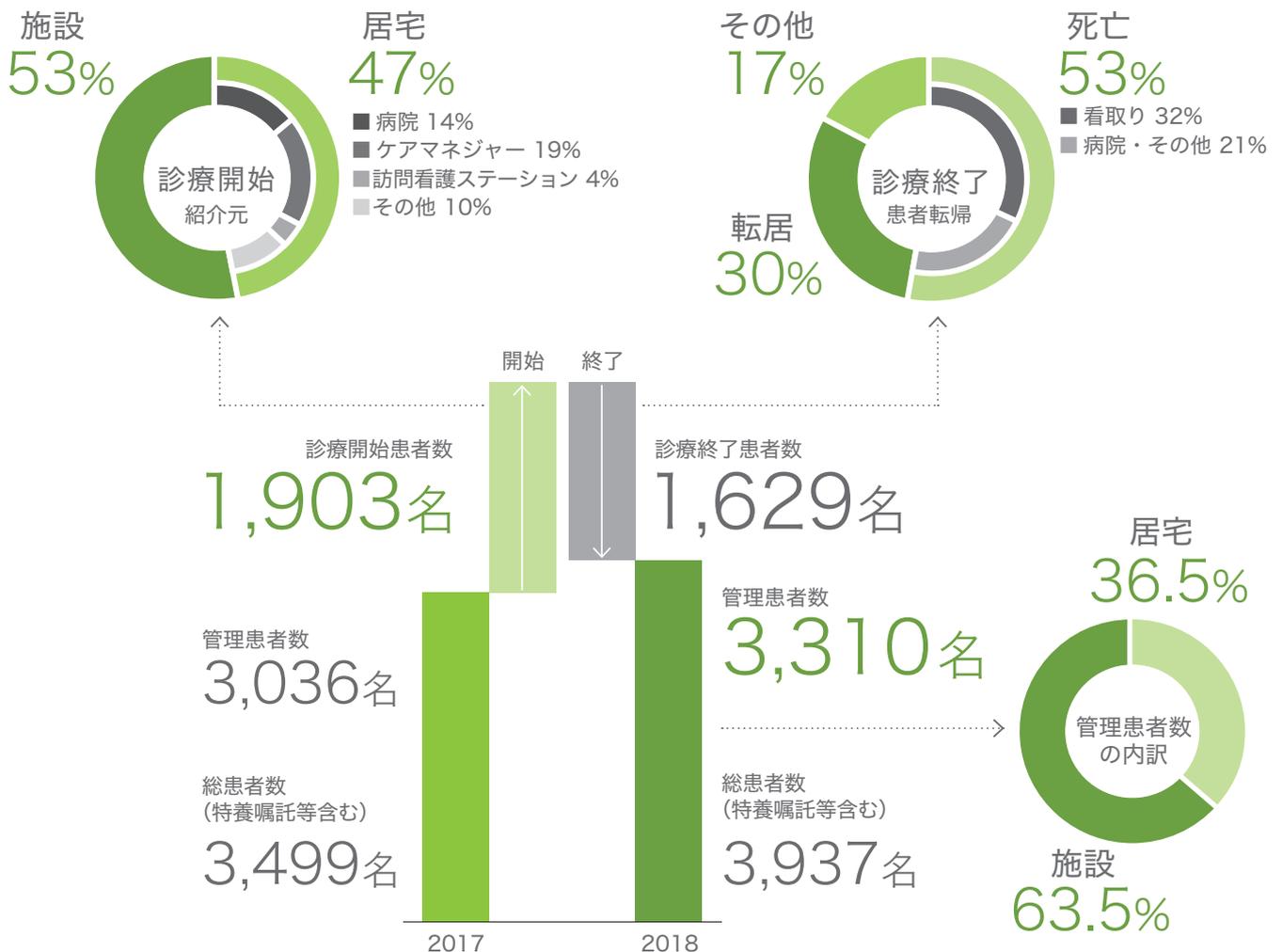
2018年9月現在

医師・歯科医師	49名	
看護師	39名	
ソーシャルワーカー	15名	
その他の医療専門職	14名	
診療サポート	58名	
管理部門	23名	
システム開発	7名	

205名

※株式会社ヒューマンライフ・マネジメント及び関連子会社を含む

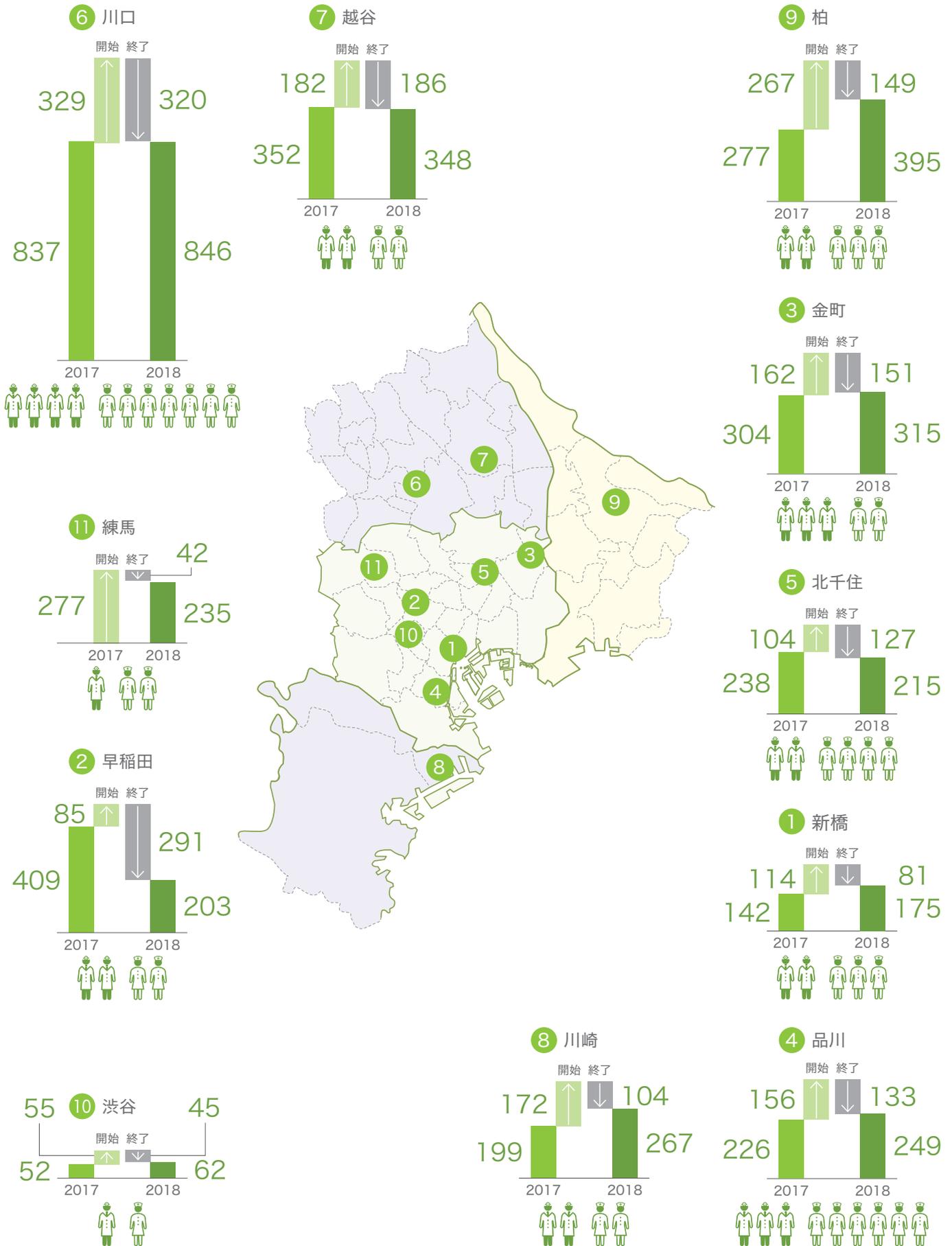
③ 管理患者数の推移



数値は2017年10月1日～2018年9月30日の推移を示しています

④ 各クリニックの管理患者数の推移

■ 2017年9月管理患者数 ■ 診療開始患者数 ■ 診療終了患者数 ■ 2018年9月管理患者数



在宅で療養している患者さんとご家族にとっての「安心できる生活」と「納得できる人生」とは何でしょうか？ それは「予期せぬ急変に怯えることなく、自分が望む場所で穏やかに最期まで生活が継続できること」だと考えます。

わたしたちは、自らの社会的責任に対するQI (Quality Indicator) として、「急変を減らす」、「入院を減らす」、「自宅 (施設) で最期まで過ごせる」、この3つを設定し、継続的に改善につなげていきます。

① 急変を減らす

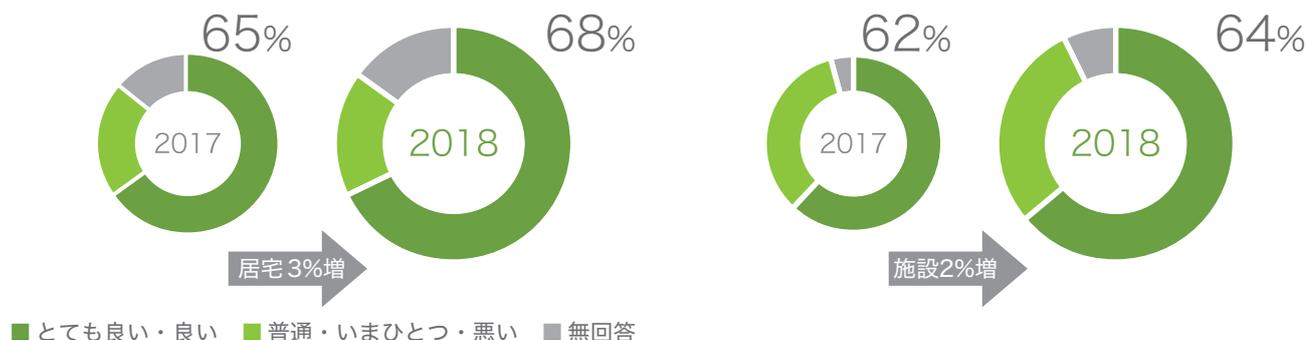
老衰や治らない病気の進行を止めることはできません。

しかし、病状経過から、今後の体調変化や症状の出現を予測し、それに備えることは可能です。休日・深夜でも確実に電話がつながり、迅速に往診できることはもちろん重要ですし、これは在宅医療としての絶対必要条件の一つです。しかし、それよりも大切なのは、夜中に電話をしなければいけない事態をできるだけ起こさないことだとわたしたちは考えます。

在宅医療における医学管理とは、継続的・計画的な健康管理を通じて、急変のリスクを最小限に抑えるとともに、予期されるリスクに十分な備えをしておくこと。よりよい医学管理を通じて、急変に怯える患者さんやご家族を一人でも少なくしたい。わたしたちの目指す在宅医療の1つの方向性です。

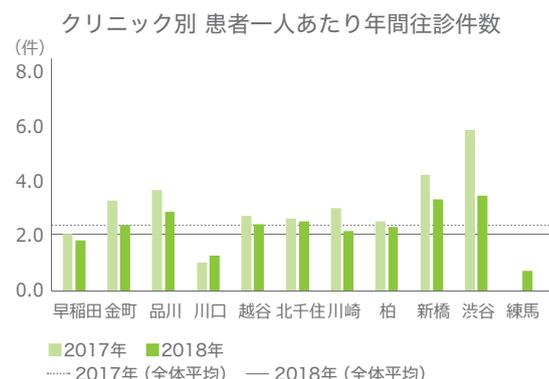
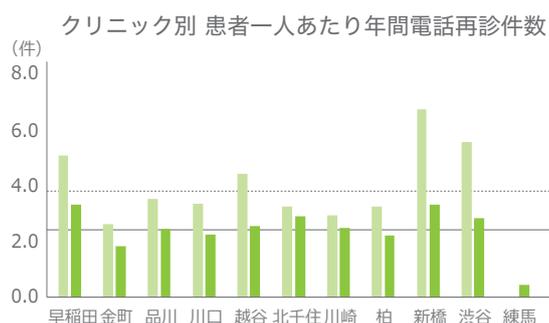
QI 1. 医学管理・居宅療養管理指導に対する患者満足度

在宅時 (施設入居時等) 医学総合管理・居宅療養管理指導を通じた療養生活および健康管理のアドバイスに対する患者・施設評価 (2018年度診療満足度調査より)



QI 2. 緊急対応件数 (電話再診/往診) 2017年10月から2018年9月までの1年間の緊急対応件数 (電話再診/往診)

年間総緊急対応件数 (電話再診/往診)



②入院を減らす

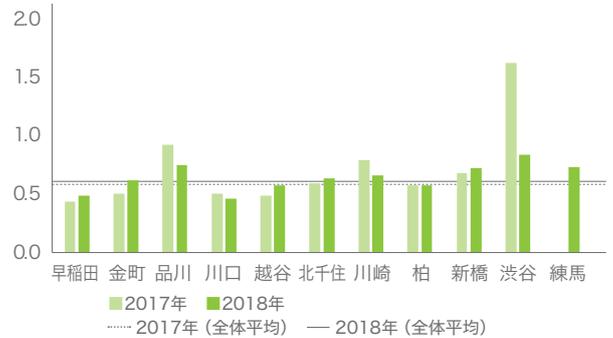
予防的な医学管理（発症予防／早期発見・早期治療）を通じて、入院が必要な事態を最小限に抑えること、そして入院になったら1日も早く退院できるように支援すること。これは在宅医療の主たる使命の1つです。

在宅医療を選択する患者さんたちは年々重度の人が増えてきていますが、それでも、できるだけ住み慣れた自宅で過ごせる時間が長くなるよう、入院回数、入院期間をできるだけ少なくできるよう、努力していきます。

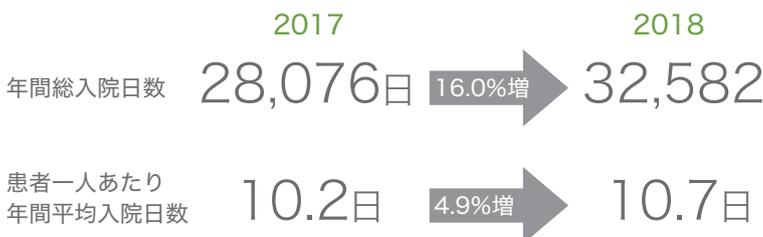
Q1 3. 入院回数 2017年10月から2018年9月までの1年間の入院回数



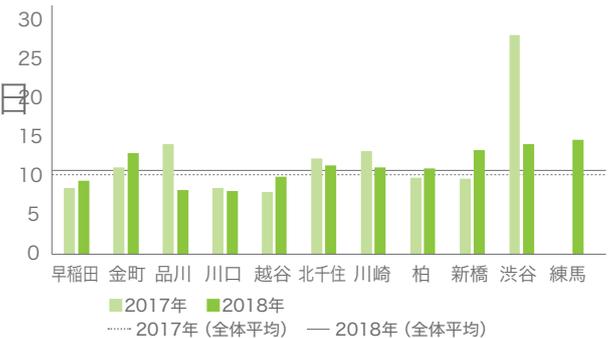
クリニック別 患者一人あたり年間平均入院回数



Q1 4. 入院日数 2017年10月から2018年9月までの1年間の入院日数



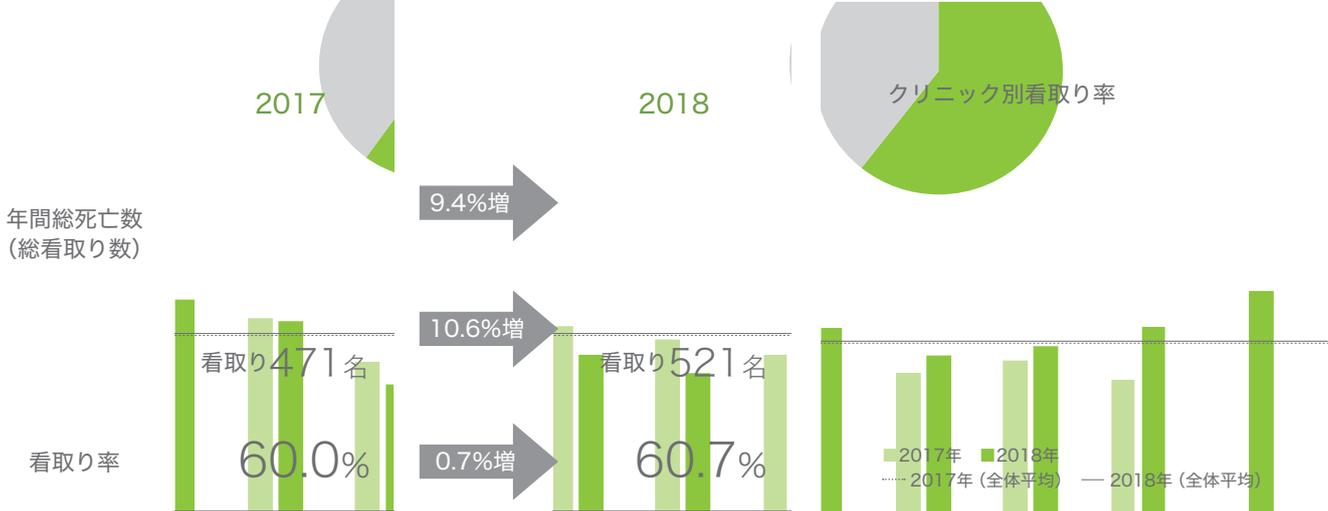
クリニック別 患者一人あたり年間平均入院日数



③自宅で最期まで過ごせる

「看取る」とは、自宅で死亡診断をすることではありません。それは、穏やかな生活を最期まで継続した結果、自宅で最期を迎えること。地域や施設での多職種連携、そしてご本人・ご家族が衰弱していく身体と上手に向き合えるよう、包括的な支援ができることが重要であると考えます。

Q1 5. 在宅・施設での看取り率 2017年10月から2018年9月までの1年間の総死亡と在宅死・施設死





» MESSAGE FROM THE FOUNDER

在宅医療を通じて、 超高齢社会を豊かな未来に。

医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長

佐々木 淳

最期まで自宅で過ごしたいと願うすべての人の想いに応えるために。
2006年、わたしたちは東京都心・千代田区に最初の在宅医療クリニックを開設しました。
在宅総合診療、確実な24時間対応、そして患者さんの人生観を大切にする医療。
地域の方々にこの3つの価値を約束し、それを忠実に守ってきました。
現在、志を同じくする76名の医師たちが、首都圏の11の診療拠点から、
常時4,000名の患者さんの生活を24時間体制でサポートしています。
精神科や皮膚科など専門医による訪問診療、そして訪問リハビリ、訪問歯科診療、
訪問栄養指導なども順次スタートし、
在宅でのあらゆる医療ニーズに応えるべく「チーム力」を磨いてきました。

わたしたちを動かすもの。
それはよりよい未来への強い願いです。

みなさんは「超高齢社会」という言葉に、どんなイメージをお持ちですか？
それは明るい未来だ、と自信を持って言い切れる人はどれくらいいるでしょうか。
日本はすでに超高齢社会です。
現在、日本の高齢化率（65歳以上人口割合）は28%ですが、将来的に47%まで増加するとともに、
総人口も急速に減少すると予想されています。

国民の二人に一人が高齢者の時代。

急性期病院を中心とした従来型の医療システム、
そして世代間支援を前提とした社会保障制度は持続可能性が懸念されるようになってきました。
増え続ける高齢者を支える介護のリソースも絶対的に不足し、支えられる高齢者の側も、
自らの意思で人生を選択できる人は残念ながら少数です。
本来、「長生き」はわたしたちの共通の願いだったはずですが。
超高齢化は、多くの人がそれを実現できるようになったという喜ばしい成果であるはずですが。
これを豊かなものにする責任がわたしたちにはあります。

答えはこれまでの延長線上にはありません。
経済成長ありきの既存の価値観を捨て「人生の豊かさ」の本質を追及する。
加齢や病気に伴い心身の機能が低下しても、
最期の瞬間まで安心・納得して生き切れるコミュニティをつくる。
そして、長生きを心から喜べる社会をつくりたい。

わたしたちは、高品質な在宅医療の提供を通じて、
22世紀型の新しい社会に最適化した仕組みづくりに、積極的に取り組みます。

医療法人社団 悠翔会
www.yushoukai.org

